

令和 6 年度

「運営に関する計画最終評価」（総括・目標別シート）

「学校関係者評価報告書」



大阪市立内代小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の児童は、穏やかで規範意識が高く従順な反面、主体性に欠けるなどの課題が見られる。与えられた課題については前向きにとらえ、取り組む力はあるものの、主体的に探究しようとする姿勢は十分とは言えない。学ぶことへの肯定的な姿勢はあり、落ち着いて学習できるが、生活面でも課題のある児童も増えてきている。課題としては、主体的に学ぶ姿勢を育成し、学校以外での学びを自ら作り出していくアビリティを高めていくことである。道徳性・社会性に関しては、道義的・倫理的に肯定的に回答する児童の割合が高いが、日々の生活における様々な場面で、自己の判断に基づき主体的に行動する力が十分ついているとは言えない。また、コロナ禍の影響のもと、子どもどうしの結びつきやコミュニケーション能力についても高めていくことで、対話的な学びを実現していくことを目指したい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 学力経年調査における「いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか」に対して「思う」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。
- 校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童を前年度より減少させる。昨年度0件の場合は0件の継続を目標とする。
- 校内調査において、不登校の児童を3%以下にする。
- 児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しいですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 小学校学力経年調査において、国語および算数の平均正答率を全国比で、同一母集団で経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 令和3年度の児童アンケートにおける「宿題や習い事以外、どれくらいの時間、家で勉強をしますか」の項目について、「30分より少ない」と答える児童の割合を減少させる全校的な取組を実施する。
- 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

【ICTにかかわること】

- デジタル教材を活用した学習活動を週3日以上実施する。
- 学習者用端末を活用して、個々の児童の機器操作の能力を高めるとともに指導者の指導力の向上を図り、ICTを活用した教育を実践する。

【働き方改革にかかわること】

- 教職員アンケートにおいて「働き甲斐を感じながら、安心して教育活動を進められている」と答える教員の割合を75%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しいですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を82%以上にする。
- 令和6年度の児童アンケートにおける「宿題や習い事以外、どれくらいの時間、家で勉強をしますか」の項目について、「30分より少ない」と答える児童の割合を減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

【ICTにかかわること】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 指導者の指導力の向上を目指し、学期に1回以上の研修を実施する

【働き方改革にかかわること】

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

感染症の影響はやわらぎ、地域との交流や外部人材の招聘など本来の教育活動を取り戻す取り組みとなった。達成状況においてもおおむね計画通りに取り組みを進め、目標どおりに達成し成果もあげることができた。特に今年度は人権教育やICTの活用に関心をもち、年間を通して学校全体で取り組むことで成長段階に応じた指導を行うことができた。今後の課題としては、目標が達成できてはいるものの、個人差の解消や、取り組みが形骸化していないかなどを検討し改善しながら、取り組みを進めていく必要がある。

(様式2)

大阪市立内代小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ○児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しいですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を90%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安心安全な教育環境の実現】 いじめを許さない心情を育てるとともに、本校の特色としての特別活動に注力し友愛の精神を育むとともに、善悪を判断し正しい行動をとる態度、集団で協業する意識の醸成を図る。 ----- 指標：いじめにかかわる学習活動を学期に1回以上実施する。また、特別活動では縦割り活動を中心として、他学年の児童に対して適切な態度と行動をとることができるよう指導を学期に1回以上実施する。 《最終評価記入欄》 ・人権教育主担を中心に学期に1回、テーマを決めて人権集会を行い、学校全体で人権・いじめ・平和についての学習に取り組んだ。各学級でも発達段階に応じた教材を活用して学習に取り組んだ。 ・縦割り班活動は児童集会などを計画的に実施することができた。内代まつりや集会などで高学年が低学年のことを考えて行動する姿が見られ、学年を超えて児童相互の温かい関係を築くことができた。	B
取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携した教育の推進】 地域の人や、様々な人とふれあう活動や保幼小連携を通して、豊かな道徳心や社会性を育む。また校内清掃に注力し、清潔で美しい環境づくり、協業意識を高める。 ----- 指標：ゲストティーチャーの招へいや交流活動を各学年1回以上取り組む。また、幼保との連携を重視し、保育体験・入学体験などの取組を1回以上行う。ペア学年清掃など清掃への意識を高める実践を年15回以上行う。 《最終評価記入欄》 ・どの学年も計画通り実施することができた。 ・ゲストティーチャーの招へいについては、どの学年も区の体育指導として体育の専門的な指導を受けた。幼保小の交流は、1年、2年、6年が実施した。高倉中学校との授業体験・部活動体験は6年生が実施した。どの学年もゲストティーチャーによる体験的学習や交流を通して、学びを深めることができた。 ・校内清掃では、毎週金曜日にペア清掃を行った。高学年としての自覚をもって行動し、低学年をサポートする姿が見られた。・ペア清掃で6年生が一人でトイレ掃除をしている場面があったため、6年生の負担にならないように計画していく必要がある。	B

<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 大阪や自分たちが住む町の歴史・文化・自然にふれることのできる体験学習を実施する。</p> <hr/> <p>指標 全学年、年1回以上、大阪市内にある施設を見学したり、自分たちが住んでいる町を探検したり、地域の自然をテーマにした学習活動を実施する。</p> <p>《最終評価記入欄》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で年度初めに年間の校外学習を計画し、施設の見学や地域の探検などを実施することができた。実際に目にしたり、体験したりすることで、学習したことをより深めることができた。今後も継続して行っていく必要がある。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は、3～6年生で90%以上の学年もあれば、76%の学年もあった。4学年での平均は約84%と目標の90%以上にならなかった。いじめ対策会議を月に一度実施し、情報共有や早期発見に努めた。 ・校内では、スクリーニング会議を月に一度実施し、不登校児童などについて情報共有した。 ・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答した児童の割合は4学年での平均は約87%と、目標の90%以上にならなかった。学年によって差があった。 ・児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しいですか」の項目について、肯定的に答えた児童の割合は94%となり、年度目標の数値より4%高かった。それぞれの担当者が中心となり、各学級での取り組みや縦割り班活動などの取り組みを積極的行った結果と考える。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・取組内容①については、学習や日々の指導などで、いじめはいけないことと認識していても学んだことを実践するには至っていない児童もいる。人への接し方や「いじめ」に対する意識を高めていけるよう継続して指導を行っていく必要がある。 ・取組内容②のゲストティーチャーの招へいや交流活動について、今年度は体験活動や交流活動をたくさん行ったが、時期や内容などを授業時間の負担にならない範囲で計画し実施していく必要がある。 ・それぞれの児童の背景にはさまざまな理由があるものの、不登校児童は増加傾向にある。その現状を踏まえ、担任や関わりのある指導者だけで抱え込むのではなく、その児童をどうフォローしていくのかを校内全体で検討する必要がある。 	

(様式 2)

大阪市立内代小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 60%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 82%以上にする。</p> <p>○令和 6 年度の児童アンケートにおける「宿題や習い事以外、どれくらいの時間、家で勉強をしますか」の項目について、「30 分より少ない」と答える児童の割合を減少させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>学力向上に向けて、児童に実態に応じた基礎学力の向上、学習意欲の亢進、家庭学習・自主学習の充実に向けての取り組みを進める。</p> <hr/> <p>指標：全校をあげて算数科の授業改善に取り組み、全教員が 2 回以上研究授業に参画し、指導力の向上を図る。計算など基礎学力の育成に注力し、年度末の児童アンケートにおいて「算数が好き」の項目で最も肯定的な「そう思う」と答える児童の割合を 70%以上にする。また、漢字検定に取り組み、児童・保護者アンケートにおいて家庭等で漢字学習に自分から取り組んだと答える割合を 70%以上にする。</p> <p>《最終評価記入欄》</p> <p>・ICT を活用した算数科の研究を行い、授業改善に繋げることができた。算数科の学習に対して肯定的に捉える回答は 80 パーセント以上となり目標指標を達成することができた。漢字学習においても 80 パーセントを超えているが、自主的に行っている児童の差は大きく、家庭への啓発をもう少し行う必要がある。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>ICT の活用やプログラミング教育への取組、英語学習（英語活動）を通して、グローバルな視野に立った「主体的・対話的で深い学び」が実現できる授業の研究を進める。</p> <hr/> <p>指標：「英語教育」についての研修を学期に 1 回以上行う。また、一人一台 PC を授業等において活用し、使用可能な授業日数の 70%以上の活用を行う。リモート授業を各学年に 1 回以上行い、臨時休業時への対応を進める。</p> <p>《最終評価記入欄》</p> <p>・「英語教育」の研修は担当教員を中心に計画通りに行うことができた。</p> <p>・算数科の研究にもあるように、端末の活用を目指して取り組んだことで活用する回数が増えた。(4 月 12 月以外は 70 パーセントを大きく超えている) その他、大型モニターや書画カメラなどを活用し視覚的に分かりやすい授業に努めることができた。</p>	B

<ul style="list-style-type: none"> ・朝会や「人権集会」で TEAMS を活用したリモートで行うことにより臨時休業への対応に繋げることができた。家庭での接続テストは今年度行われていない。 ・プログラミング教育については学級で差がある。 	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体育授業の改善、研修会を通して、指導技術を向上させ、児童の体力の向上を図る。また、手洗いやうがい、睡眠、朝ご飯などのよい習慣を身に着けられるように、児童の実態に即して指導を充実し、感染症を意識した健康な生活が送れるようにする。</p> <hr/> <p>指標 体育学習指導力の向上を意図した取り組みを年2回以上実施する。</p> <p>《最終評価記入欄》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナプスロジの取り組みや体力テストの計測の仕方について等、取り組みを行い、指導技術の向上に繋げることができた。 ・感染症を意識した生活が送れるよう、発育測定時に各学年の実態に即して保健指導を行った。また、3月初めに健康委員会の児童を中心に、手洗いをテーマに学校保健委員会の開催を予定している。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標にある「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合については、学年での差が大きく達成はできなかった。 ・「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は78%と82%を僅かに届かなかった。 ・学校学力経年調査における結果は、昨年度よりも上昇した学年もあったが、学年が上がるほど問題が難しくなるため達成することができなかった。 ・児童アンケートにおける「宿題や習い事以外、どれくらいの時間、家で勉強をしますか」の項目では、「30分より少ない」と答える児童の割合が昨年度43%から35%と減少したため、達成したと言える。 	
次年度への改善点	
<p>取り組みのほとんどの項目で指標は達成できているが、進捗状況として B となった。数値に囚われず内容の充実化や次年度に生かすことのできる取り組みを行うことが重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定や自主学習の家庭への啓発や質を高めるための工夫 ・臨時休業の際のリモート授業について ・プログラミング教育の取り組み ・主体的・対話的な学びの推進 	

(様式2)

大阪市立内代小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 【ICTにかかわること】 ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ○指導者の指導力の向上を目指し、学期に1回以上の研修を実施する 【働き方改革にかかわること】 ○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】 授業中に、児童がICT機器を操作し、情報にアクセスしたり、電子ドリルを活用したりし、主体的な学びを進める力を養う。 指標：令和5年度の児童アンケート調査で「日々の授業の中で学習者端末を活用して学習をしている」の項目ではほぼ毎日と答える割合を70%以上にする。 《最終評価記入欄》 授業で児童用端末の活用が進み、多くの学習場面で使用されるようになった。特にICTの研究を通じて端末利用が定着し、児童も日常的に活用している。ただし、学年や単元によって活用頻度には差があり、1年生では操作の難しさも見られる。また、端末の不具合や使用環境の課題も依然として残っている。 児童アンケートでも70%以上の児童がほぼ毎日使用していると答えている。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 研究授業をより実効性のあるものとし、また実技等の研修を充実させることで、指導力の向上を図る。 指標：教職員アンケートにおいて「研究授業や校内研修が実のあるものになったと思うか」の項目で100%の教員が肯定的な評価をする。 《最終評価記入欄》 校内研修や研究授業が計画通り実施され、教職員の指導力向上に貢献した。特にスカイメニューやICTの活用に焦点を当てた研修やQUの研修が実りあるものとなり、新たな学びが得られた。今後も継続的な研修を通じて、授業での活用力を高めていくことが求められる。	B
取組内容③【基本的な方向番号7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員がゆとりをもって働き、子どもとのふれあいを通して充実した思いが持てる労働環境を実現する。	B

<p>指標：学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 80%以上にする。</p> <p>《最終評価記入欄》</p> <p>働き方改革の意識は高まっており、会議や行事の精選が進んでいるが、持ち帰り仕事や休日出勤は依然として多く、業務量の増加が根本的な課題となっている。小規模校では一人あたりの負担が大きく、引き続き業務の効率化が求められる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT の活用（心の天気・授業）が定着した。 ・ 研修においては本校の課題に沿った内容を取り上げ、外部人材を招聘し、充実した研修となった。 ・ ゆとりの日の活用効果など、時間外勤務の短縮につながっている。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT の活用が習慣化となるよう引き続き取り組む。 ・ 限られた時間の中で充実した研修となるように内容の吟味や精選を行う。 ・ 持ち帰りの仕事や休日出勤を軽減できるよう業務の見直し等を行う。 	

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立内代小学校協議会

1 総括についての評価

おおむね評価できる内容だと思う。ICT を積極的に活用することで自分の思いや考えを豊かに表現できることは評価に値する。内代小の子どもたちの限らずこれからの時代に必要な能力であるので、素晴らしいと思います。目標に向けて工夫し取り組んだ結果が、成果につながっていると感じます。子どもたちが楽しく通学できたこと、学習を進められたこと、先生方のおかげです。内代小学校で素晴らしいところは、高学年を中心とした子どもたちの縦のつながりができていることだと思います。多くの場面で見る事ができています。社会に出ると同年代のつながりより、異なる世代とのつながりがほとんどとなるので子どもたちが異なる学年の子たちと、多様な付き合い方を知っていけるのはとても良いことだと思います。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

安全・安心な教育の推進

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
 ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
 ○児童アンケートにおける「毎日、学校に来るのが楽しいですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 90%以上にする。

すべての児童が「いじめは絶対にあってはならない。」と認識しているものの、どんな理由があろうともに関しては、理由次第や場合によってはいじめがあっても仕方がないと感じている児童が特に高学年で少なからずいることを知りました。なかなかすべての児童に理解させるのは難しいと感じました。今後も学校全体でいじめがなくなるように取り組んでもらえたらありがたい。学校のきまりについては、朝集団登校がきちんとできています。毎日、学校に来るのが楽しいと多くの児童が答えているのは大変いいことだと思います。

未来を切り拓く学力・体力の向上

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 60%以上にする。
 ○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
 ○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 82%以上にする。
 ○令和 6 年度の児童アンケートにおける「宿題や習い事以外、どれくらいの時間、家で勉強をしますか」の項目について、「30 分より少ない」と答える児童の割合を減少させる。

全国学力・学習状況調査や大阪市経年調査の結果では、おおむね全国・大阪市の平均と同等なので、一定の成果があると考えます。これからも個々の学力向上に力を入れて全体として底上げできるよう取り組んでもらえたらと思います。全国体力・運動能力調査においても、おおむね全国・大阪市の平均と同等なので、一定の成果があると考えます。体力点の結果はもちろん重要であるが、それ以上にほとんどの児童が「運動が好き」「運動をする習慣が身についている」ことが何よりも大切であると思う。それが基盤になってこそ、体力の向上につながると思います。

学びを支える教育環境の充実

【ICTにかかわること】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
○指導者の指導力の向上を目指し、学期に1回以上の研修を実施する。

【働き方改革にかかわること】

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を80%以上にする。

同じ大阪市でも学校によって活用頻度の違いがあることを知った。これからの時代はデジタルができないと取り残されていくのかと思います。学校側も新しく教えなければならないことが増えて大変だと思うが、今後も継続して取り組みを進めてもらいたいです。また近年問題となっている働き方改革であるが、学校の取り組みの成果もあり、昨年度より改善できている点はよかったです。これからは教職員の体調管理に気を付けていただき、みんなが元気な学校になってほしいと願っています。

3 今後の学校園の運営についての意見

多くのことを取り組まなければならない中、先生方が工夫されて取り組んでいただいていることに大変感謝しています。今後も子どもたちのためにできることを模索し、取り組んでもらえることを期待しています。また、感染症も緩和されたので、ここ最近でできなかった地域との取り組みもぜひ復活し、互いに協力して子どもたちのために取り組んでいければよいと思います。